

北の大地を育んだ川との共生 治水と利水の技術史Ⅱ

～ 第二部 利水編 ～

日 時

令和4年7月4日 12:55～16:50
2022年

開催場所

Web Zoom（WEB会議アプリ）にて全国域配信予定

申込方法

弊社ホームページの受付フォームからお申し込みください

Zoom
Webセミナー
受講無料
定員 1000名

講演会次第

開会挨拶	12:55～13:00	一般社団法人 建設イノベーション推進機構 代表理事 金澤 義輝
基調講演	13:00～14:00 終了後質疑応答5分	「流域治水と河川環境の整備と保全」～ 気候変動下におけるグリーンインフラの役割 ～ 北海道大学大学院 教授 中村 太士 氏
講演・1	14:05～14:50 終了後質疑応答5分	「泥炭原野開拓の大志」～ 北海道農業の基盤をつくった農業土木 ～ 北海道大学 名誉教授 長澤 徹明 氏
	14:55～15:05	休 憩
講演・2	15:05～15:50 終了後質疑応答5分	「北海道運河土木史における大友亀太郎」～ 北海道開拓と初期舟運 ～ 北海道産業考古学会 会長 日本産業技術士学会 理事 山田 大隆 氏
講演・3	15:55～16:40 終了後質疑応答5分	「先史の人々の水環境と暮らし」～ 水に恵まれた豊平川扇状地の遺跡の時代的変遷を中心として ～ 札幌市市民文化局文化財課 文化財調査員 榊田 朋広 氏
閉会挨拶	16:45～16:50	一般社団法人 建設イノベーション推進機構 副理事長 渡辺 邦夫

Google Earth
Image © 2022 CHES/Artus
Map data © Mapbox Technologies

主 催：一般社団法人 建設イノベーション推進機構
共 催：公益社団法人 土木学会 土木史委員会 / 北海道産業考古学会
協 賛：岩田地崎建設(株)、伊藤組土建(株)、(株)草別組

(株)ドーコン、(株)構研エンジニアリング、(株)開発調査研究所、(株)シン技術コンサル、
日本データサービス(株)、北海道土木設計(株)、アースコンサルタント(株)、新和測量(株)
(株)アイ・ティ・エス

後 援：北海道開発局、北海道、札幌市、北海道開発技術センター、北海道河川財団、
石狩川振興財団、北海道道路管理技術センター、北海道建設業協会、
北海道農業建設協会、北海道建設技術センター、建設コンサルタンツ協会北海道支部、
日本技術士会北海道本部、北海道測量設計業協会、北海道農業土木測量設計協会、
北海道新聞社、北海道建設新聞社、北海道通信社（順不同）

お申込みはこちらから

IPAC 一般社団法人 建設イノベーション推進機構
<https://www.ipac.or.jp/2022>



北の大地を育んだ川との共生 治水と利水の技術史 II

～ 第二部 利水編 ～

講演会の主旨・概要

人は先史より川辺に寄り添い生活し、川を拠点に人流・物流の“みち”を拓いてきました。特に、北海道は明治の幕開けとともに本格的な内陸部の開拓に着手し、150年の年月を経て現在の北海道を築いてきました。

この道のりで厳しい水流の災いに見舞われながらも川の恵みに浴し、川辺からその周囲に用排水路を毛細血管のように張り巡らし、生活の場・水辺の空間を広げ、全国有数の農業畜産適地として築き上げ、今日に至りました。

本講演では、先人による川辺空間から周囲への水辺空間拡大にあたって整備し、今なお現在の発展を支える歴史的インフラ、遺構などを技術史的観点から学ぶとともに、将来予想される気候変動の影響を鋭敏に反映する水辺空間が、安全で快適な生存の場として持続するための研究最前線の取組み、動向を学ぶ場と致します。

基調講演：「流域治水と河川環境の整備と保全」～ 気候変動下におけるグリーンインフラの役割 ～

通称“流域治水関連法”の附帯決議には「流域治水の取組においては、自然環境が有する多様な機能をいかすグリーンインフラの考え方を普及させ、災害リスクの低減に寄与する生態系の機能を積極的に保全又は再生することにより、生態系ネットワークの形成に貢献すること」と記されている。本講演では千歳川流域にある舞鶴遊水地を例に、気候変動下におけるグリーンインフラの役割、そして石狩川流域への展開について述べる。

講演 1：「泥炭原野開拓の大志」～ 北海道農業の基盤をつくった農業土木 ～

明治以降の開拓地殖民は、概ね条件の良い土地から始められたため、首府に近いにもかかわらず、洪水常習の泥炭湿地であった石狩川下流地帯はながく放置された。たとえば、篠津原野は、明治中期から入植や排水路整備が行われたが成功せず、大正年間ようやく大排水路が掘削されたが、本格的な拓殖までには至らなかった。泥炭原野開拓の大志は、戦後の篠津地域総合開発事業により果たされ、原野排水と共に石狩川の利水にかかる農業土木技術が農業の基盤を築いた。

講演 2：「北海道運河土木史における大友亀太郎」～ 北海道開拓と初期舟運 ～

札幌市中心部条理型街区の由来が初代判官島義勇提言は有名だが、その基礎は、天側による大友亀太郎設計による大友堀（慶応2年）の南北部分である。詳細は2018年の北海道遺産第3回選定で解明された。大友堀は、幕藩時代在来舟運技術体系（測量法：伊能忠敬、運河土木技術：二宮尊徳）を継承して大友による導入で建設され、体系は道庁時代岡崎文吉の創成運河に継承された。今回は最近の研究成果と多数の未公開写真で大友の不朽の功績を考察する。

講演 2：「先史の人々の水環境と暮らし」～ 水に恵まれた豊平川扇状地の遺跡の時代的変遷を中心として ～

札幌に最初に人が住んだのは今から約8千年前のことである。その時から、人々は海や川と密接にかかわりながら生きてきた。温暖化と寒冷化による海水面の上昇と下降。川が運ぶ砂礫や土砂の堆積と扇状地・氾濫原の形成。数千年の時をかけて変わる水環境に、人々はどのように向き合ってきたのか。札幌の都心部をのせる豊平川扇状地とその周辺で発見された先史時代の遺跡から、水環境と暮らしの実態に迫る。

参加お申し込み方法

以下の URL にアクセスして、専用の申込フォームよりお申し込みください。
お申し込み期限は 6 月 24 日金曜日までとさせていただきます。

<https://www.ipac.or.jp/2022>



お問合せは Mail にて承ります Mail：ipac-info@ipac.or.jp



一般社団法人

建設イノベーション推進機構

IPAC

Innovation Promotion Agency for Construction